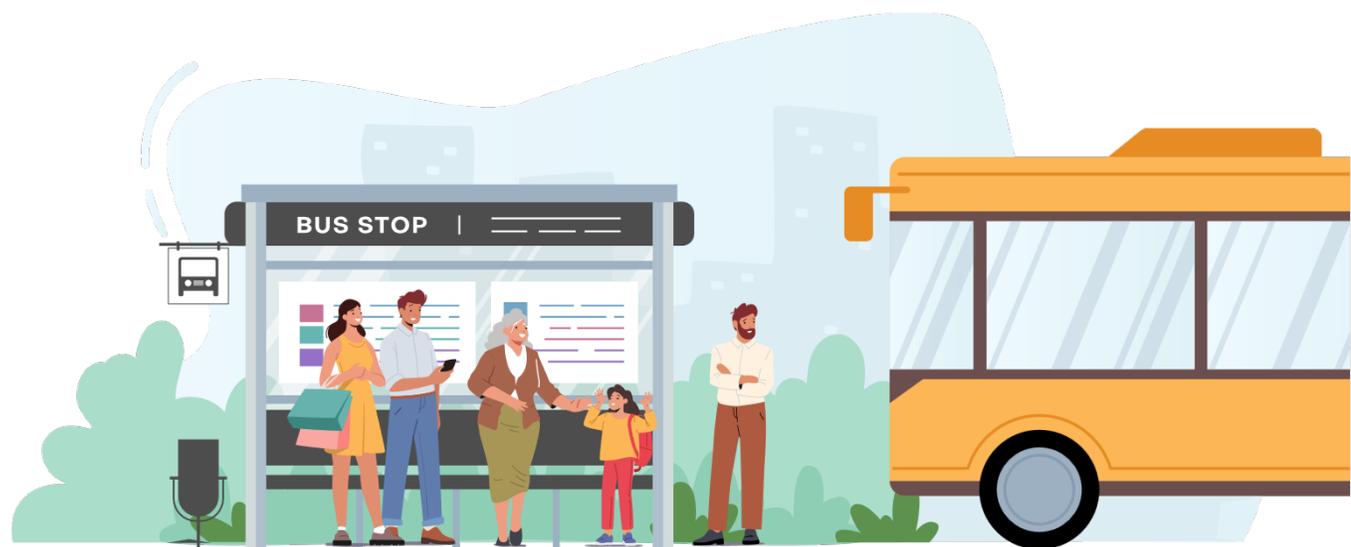


バス利用者の利便性向上と 運用効率化を実現する

MORA FOR BUS STOP

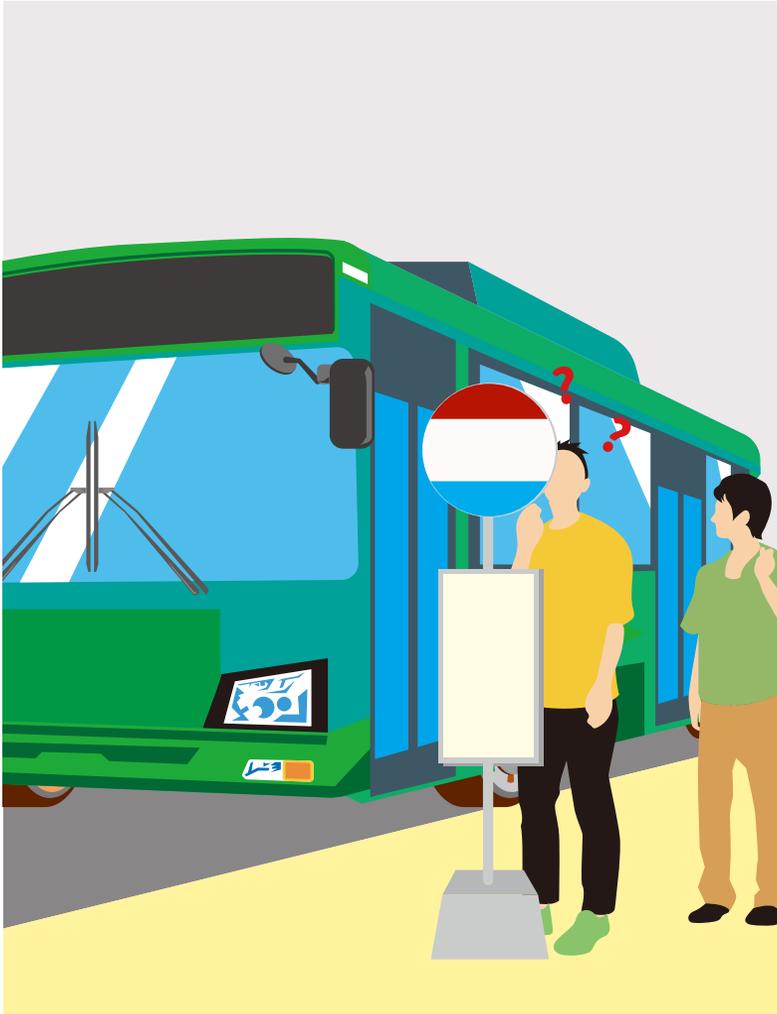


目次

バス停ソリューションが求められる理由	P3	筐体ラインナップ（屋外用_自立型）	P15
FFISの紹介	P4	導入までのステップ	P16
FFISの事業領域	P5	よくある質問（FAQ）	P17
富士フィルムの強み	P6	お問い合わせ	P18
MORA FOR BUS STOPとは	P7		
利用者視点の利便性向上	P8		
自治体・事業者の運用最適化	P9		
導入に向けた他社との違い（表あり）	P10		
導入事例①：前橋交通政策課	P11		
導入事例②：西日本鉄道株式会社	P12		
導入事例③：やまがた駅バス停（予定）	P13		
導入事例④：箕面駅	P14		



バス停ソリューションが求められる理由



地域公共交通を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、国土交通省の報告によれば、地方のバス路線は1990年代から右肩下がり減少を続けています（参考：地域公共交通確保維持改善事業）。

高齢化や人口減少、マイカー依存の進行により、地域における移動手段の確保が喫緊の課題となっています。特に地方自治体では、通院・買い物・通学など日常の移動をバスに頼る高齢者が増えている一方で、時刻表の見つらさや運行情報の分かりにくさが利用障壁となり、バス離れを招いています。

実際に、国土交通省東北運輸局の調査では「バス停の時刻表の字が小さくて見つらい」といった声が挙げられており、山形県尾花沢市の議会資料でも「バスの時刻表が大変見つらい」との市民の声が記録されています。

また、**バス運行に関わる情報が各バス会社単位で分断されており、複数路線が乗り入れる場所では「どのバスがいつ来るのか」が直感的に分からない状況**です。

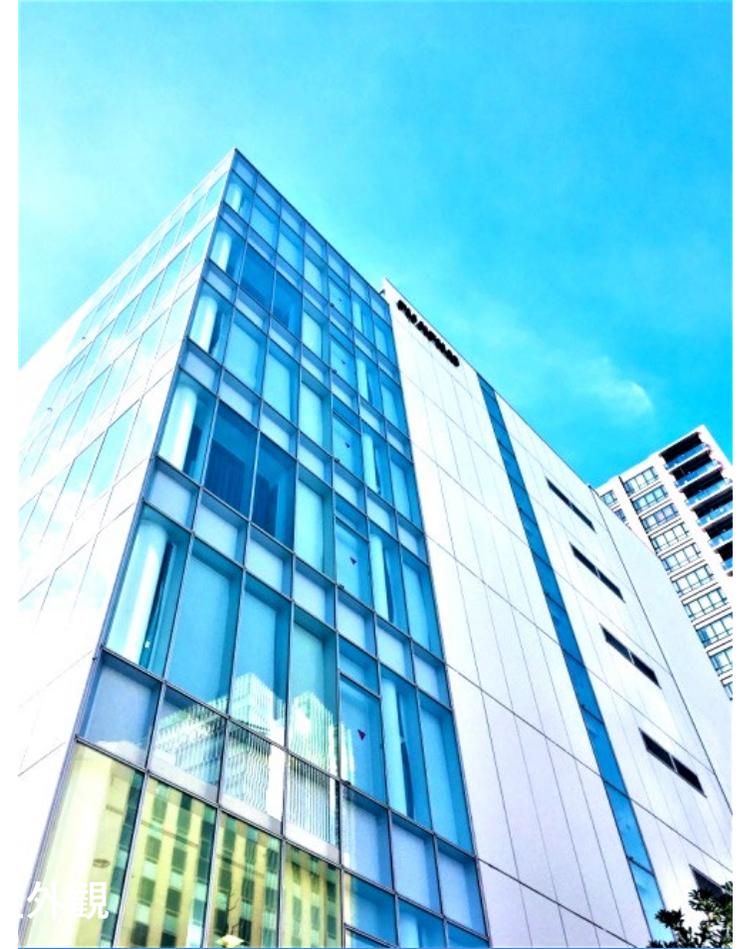
こうした声に代表されるように、単に**運行本数の問題ではなく「情報の届きにくさ・分かりにくさ」がバス離れの一因**となっています。

このような課題に対応するため、バス停に設置されたサイネージを活用し、リアルタイムでの発車案内や遅延情報、地域情報を一元的に表示する「バス停ソリューション」が全国で注目を集めています。特にデジタルサイネージを活用した情報提供は、観光客への案内や災害時の即時情報発信手段としても有効です。

FFISの紹介

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社（略称：FFIS）

設立	2012年2月1日
資本	1億円（富士フイルム株式会社100%出資）
売上規模	約600億円
従業員数	約500名
代表	松本 考司
所在地	〒141-0031 東京都品川区西五反田3丁目5番 8 号 JR目黒MARCビル11F
事業内容	電子映像・写真関連等のイメージング製品の販売 ビジネスユースに関連した画像・情報サービスの提供



本社外観

FFISの事業領域

コンシューマー 営業本部

フォトイメージング事業



フォトブックやポストカードの作成サービス、インスタントカメラや写真フィルムなどの写真関連製品をコンシューマー向けにご提供。

デジタルカメラ事業



デジタルカメラやフジノレンズ、記録メディアなどの電子映像製品をコンシューマー向けにご提供。

イメージテック 事業本部

ビジュアル&サイネージ事業部



大型ディスプレイ&サイン、デジタルサイネージの設置・施工、メディアコンバート、テストチャートを法人向けにご提供。

ID&クラウド事業部



各種IC・IDカードの作成、カード発行システム販売、画像・映像資産の管理・保存・活用に関するクラウドサービスを法人向けにご提供。

ビジネスソリューション事業部



公共、建設業、アミューズメント向けIDカードソリューションのご提供、RFID関連製品の販売。

富士フイルムイメージングシステムズ（株）の強み

富士フイルムグループでは長年にわたり「写真技術」で培われてきた画像処理・表示技術のノウハウを様々な分野に活かしています。富士フイルムイメージングシステムズではアナログプリントビジネスで全国の駅、空港、商業施設など多様な現場での施工実績があります。培ってきた設置・運用ノウハウを活かし、お客様にとっての最適な設計と運用を考えます。最も効果的に情報を伝えるサイネージシステムを企画・設計～設置施工～保守運用まで一貫する“ワンストップサポート体制”で、お客様のさまざまなご要望にお応えします。

富士フイルムグループが持つ多様なサービスを組み合わせ、お客様の目的に最適化されたソリューションをご提供します。

バス停ソリューション向け組み合わせ例



広告・ディスプレイサービス



デジタルサイネージ



データ管理サービス

MORA FOR BUS STOPとは

MORA FOR BUS STOP（以下、MORA）は、リアルタイム発車案内や時刻表などの運行情報と、地域情報を網羅するバス案内サイネージシステムです。

高精細ディスプレイにより、多くの情報をわかりやすく表示し、直感的なインターフェースを実現。複数のバス会社の運行情報を統合し、GTFSやオープンデータとの連携で、情報発信の属人化回避、業務効率化を実現します。

導入事業者の紙掲示の手間や誤表示リスクを減らし、運用負担軽減に寄与します。

また、地域広告の販売支援も行っており、ランニングコスト削減の仕組みも提案可能です。



詳しくはこちらも御覧ください

<https://www.fujifilm.com/jp/ja/business/signage/digital-signage/mora>

導入メリット①

利用者視点の利便性向上

MORAは、誰にとっても“わかりやすいバス停”を目指し、以下のような利便性を提供します。



高精細表示で見やすい案内

4K対応の高輝度ディスプレイにより、文字の潰れや見づらさを解消。晴天下や夜間でもはっきりと情報を視認できます。



リアルタイム発車案内

現在時刻に基づく発車時刻・行き先・のりばを即時に表示。遅延や運休にも即応し、利用者の不安を軽減します。



多言語・ピクトグラム対応

英語・中国語・韓国語等の切替表示を行い、外国人観光客も迷わずに利用可能。ピクトグラムによって高齢者や障がい者にも配慮したデザインを実現。



観光・地域情報との連携

発車案内の合間に地域の観光スポットやイベント情報を表示。移動を情報の“接点”とすることで、まち歩きのきっかけを創出します。



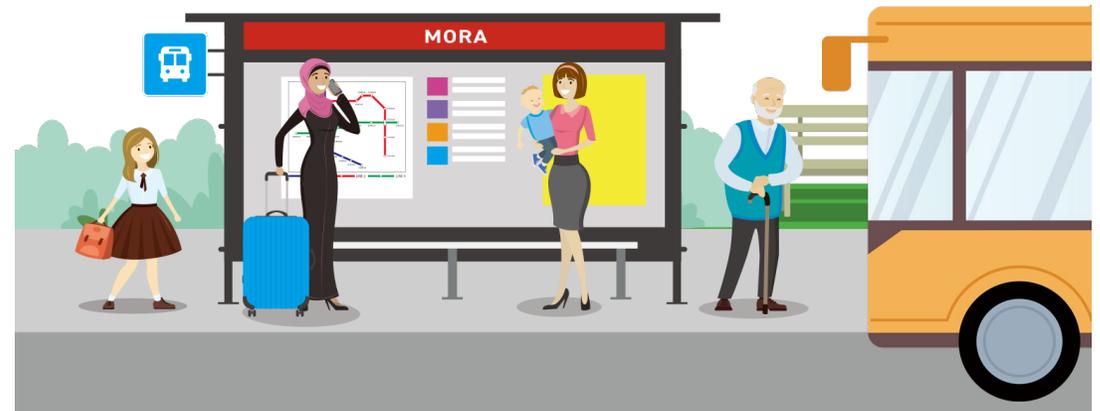
音声出力

接近情報を音声出力することで高齢者や障がい者の利便性向上。



スマホ閲覧

MORAの運行画面をスマホ閲覧できるオプションあり。利用者と事業者の利便性を向上。



導入メリット②

自治体・事業者の運用最適化

MORAは単なるサイネージではなく、運用の効率化を実現するインフラとして設計されています。

情報の自動更新（GTFS連携）

ダイヤ改正や臨時便、運休などの情報を自動で更新。バス会社や自治体側の更新作業が不要となり、属人化を回避します。

フリーズ時の自動復旧

機器が停止した際も、自動リブート機能により現地作業不要で復旧可能。メンテナンス対応の頻度を大幅に削減。

保守体制：365日対応

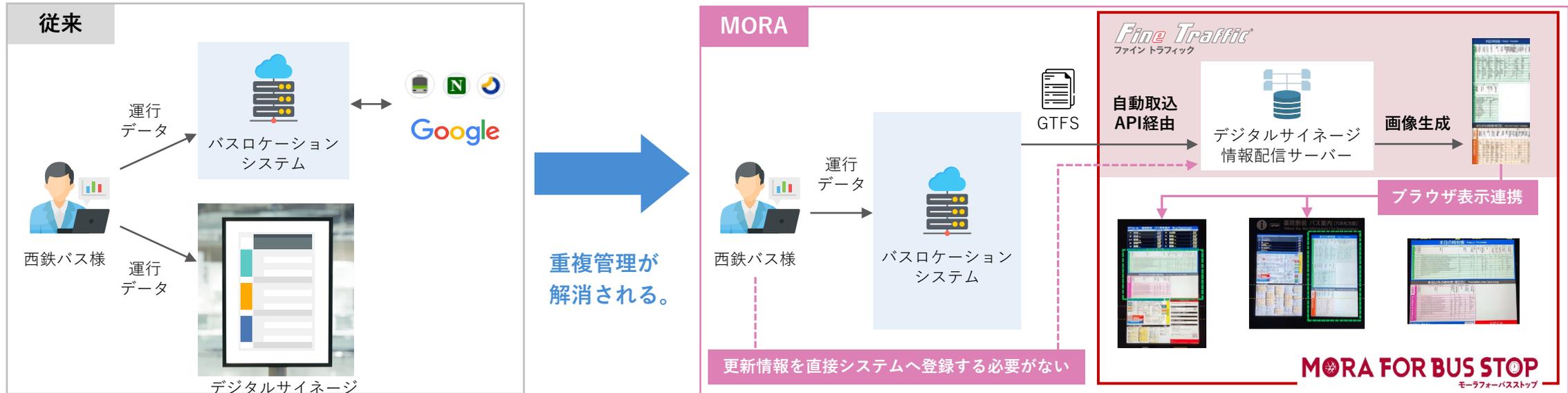
富士フィルムの全国ネットワークを活かし、機器保守や障害時対応を常時サポート。障害時の掲示対応義務にも配慮。

地域広告による費用負担軽減

地元企業との連携により、画面の一部を広告枠として運用可能。運用コストの一部を広告収益でまかなうことができます。

これらの特長により、MORAは導入後の

「見える成果」と「持続可能な運用モデル」を両立させる、自治体・交通事業者の力強いパートナーとなります。



MORA導入後の課題解決例

以下の表は、従来のバス停とMORAとの機能差をわかりやすくまとめたものです。

No.	項目	従来のバス停課題	MORA導入効果
1	FineTraffic	情報が会社単位で乱立	複数バス情報の情報統合・臨時情報対応
2	ダイヤ改正	属人化・ミスが発生しやすい	自動化で更新作業を効率化
3	機材保守サポート	お客様自身で現地対応が必要	障害時もお客様側の対応不要（365日対応可）
4	グラフィック・サイン加工	存在がわかりづらい	視認性向上で利用者を誘導
5	4K機種	情報量不足	豊富な情報量で紙運用を排除
6	広告運用	維持管理コスト発生	維持管理費の負担軽減
7	お知らせコンテンツの配信・更新	ユーザー操作が複雑・現地で紙貼り対応	即時更新・遠隔確認で利用者の不安を軽減
8	リブーター搭載	PCフリーズ時に現地で再起動操作	自動再起動でダウンタイム削減

導入事例 ①

前橋市におけるバス案内の統合と最適化

導入背景

群馬県前橋市では、公共交通の利用促進と案内環境の改善を目的として、駅周辺の情報提供手段の見直しが検討されていました。市内運行6社の情報が紙で乱立していることやリアルタイム情報の提供等、バス利用者にとってわかりやすい案内が課題とされていました。

ポイント

- 市内運行6社分のデジタル時刻表とリアルタイム発着案内を一元化
- 構内の景観に配慮したすっきりとしたデザイン
- 紙掲示からの移行により管理業務を効率化

導入概要

JR前橋駅前バスロータリーにおいて、**65インチの総合案内サイネージ**を設置。バス発車時刻・のりば情報・方面案内を統合し、見やすく・わかりやすい表示を実現しました。駅の利用者だけでなく、近隣商業施設や行政機関を訪れる市民や来訪者にも便利な交通案内として機能しています。

導入効果

既設の時刻表示機をデジタルサイネージにリニューアル。駅利用者が総合案内を活用してからバスのりばに向かう場面が増え、**バスロータリーの利便性が向上**。加えて、ダイヤ改正時のバス事業者持ち回りによるスタンドアロン更新が解消され、**運営側の業務負担も軽減**されました。



導入事例 ②

福岡市内でのわかりやすい公共交通整備

導入背景

福岡市内の主要ターミナル駅の一つである薬院駅では、日々多くの通勤・通学客がバスを利用しており、**電車からの乗換結節点におけるバス発着状況のわかりづらさ**が課題とされていました。また、急な運行変更時の情報伝達にも限界がある状態でした。

ポイント

- 高精細表示により文字潰れを防止し、情報の見やすさを確保
- 通勤時間帯の混雑緩和に寄与する案内機能
- バス利用者の動線に沿った適切な配置

導入概要

薬院駅前と天神周辺のバス停に、**65インチおよび55インチのデジタルバス停**を複数面設置。複数路線の発車案内をリアルタイムで表示し、乗り場情報・系統・時刻などを直感的に確認できるようにしました。

導入効果

バス停の視認性と存在感が大きく向上したことで、**通勤時のスムーズな乗換が実現**。利用者満足度の向上だけでなく、運休や改正予告等の**臨時情報告知の負担軽減**にもつながっています。



導入事例 ③

山形市における市民・観光向けの情報拠点整備

導入概要

山形市では、公共交通の利便性向上と待合環境の改善を目的に、主要バス停や待合室にMORAを導入。2025年4月1日より、市役所前・JR山形駅西口・道の駅やまがた蔵王など計9か所で運用が開始されました。

特に市役所前では1m×4mのLEDビジョンによる「MORA VISION」が導入され、シンボリックな案内設備として機能しています。

ポイント

- 市内バス7社の情報を統合し、遅延や発車時刻等をリアルタイム表示
- 多言語表示・音声案内・スマホ閲覧機能に対応
- 地元企業の広告配信により地域経済にも貢献
- 市政情報や観光案内など、公共+民間情報のハイブリッド表示を実現

導入効果

複数のバス事業者による運行情報を一元管理し、わかりやすい発車案内を提供することで、バス利用者の利便性を大幅に向上。スマホ連携や音声案内機能も評価され、市民・観光客両方の利用促進につながっています。加えて、広告収益により設備の維持運用コストも最適化されており、まちの情報ハブとして多機能に活用されています。



導入事例 ④

箕面市におけるバス案内の統合と最適化

導入背景

大阪府箕面市では、複数の駅・公共施設・医療機関において、地域内移動の利便性向上と情報提供の質の向上が求められていました。特に、観光や通院、買い物などでバスを利用する高齢者や市民にとって、**わかりやすく統一された交通案内**の整備が課題となっていました。

ポイント

FineTrafficで情報統合

市内のバス情報を集約し、遅延を含む発着案内をリアルタイム表示。複数のバス事業者の情報を統一フォーマットで案内可能に。

他サービス連携

GoogleMapや乗換アプリとの情報連携でダイヤ改正の業務効率アップ。

広告とのハイブリッド運用

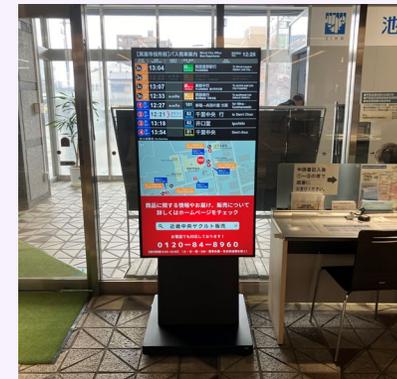
地元事業者による広告放映で、自治体の維持管理費負担軽減も実現。

導入概要

阪急箕面駅・北大阪急行箕面萱野駅をはじめ、市内6施設にMORAを導入。43~55インチのディスプレイで多様な設置環境に対応し、市内2社のバス時刻表・乗り場案内・広告などを一画面で統合表示。市民サービスを向上する交通情報ハブとして活用されています。

導入効果

箕面市では、市民のバス利用に対する満足度向上だけでなく、**地元企業と連携した広告運用モデル**を構築。公共サービスとしての案内機能と、地域経済の活性化を同時に達成する事例となりました。



筐体ラインナップ（屋外用_自立型）

MORA導入は、現地調査・設置計画から運行情報の設定、保守体制の構築まで一貫してサポート可能です。
初めてデジタルサイネージを導入される自治体でも、専門チームが丁寧に支援し、短期間でのスムーズな立ち上げを実現します。

MORA FOR BUS STOP						
モニター規格	75inch横	55inch縦ダブル	65inch縦	55inch縦	43inch縦	
外形サイズ	フルハイビジョン	—	H2,250 × W1,800 × D290mm	H2,285 × W1,070 × D200mm (下部台座：H50 × W1,070 × D600mm)	H2,050 × W880 × D148mm (下部台座：H50 × W880 × D600mm)	H1,930 × W737 × D148mm (下部台座：H50 × W737 × D500mm)
	4K	H2,208 × W2,400 × D250mm	—	H2,250 × W1,030 × D290mm	H1,967 × W871 × D150mm	—
筐体イメージ	フルハイビジョン	—				
	4K		—			—

サイズは予告なく変更する場合があります。

導入までのステップ

MORA導入は、現地調査・設置計画から運行情報の設定、保守体制の構築まで一貫してサポート可能です。
初めてデジタルサイネージを導入される自治体でも、専門チームが丁寧に支援し、短期間でのスムーズな立ち上げを実現します。



よくある質問 (Q&A)

導入費用、設置に必要なスペース、通信環境、情報更新の仕組み、他社システムとの連携など、導入前によく寄せられる質問にお答えします。導入検討の初期段階での不安や疑問を解消し、安心してご相談いただけるようサポート体制を整えています。

Q 対応しているバスロケーションシステムは？

A GTFS形式や主要なバスロケシステムに対応可能です。

Q 設置スペースはどれくらい必要ですか？

A 筐体サイズに応じて柔軟にご提案できます。基本サイズは43インチ～75インチですが、その他のサイズも対応可能です。

Q 導入までどれくらいの期間がかかりますか？

A 内容によりますが、最短4～6ヶ月での導入が可能です。

Q GTFSの整備前だが相談可能か？

A GTFS整備からの対応も可能です。必要情報については別途打ち合わせをお願いいたします。自動更新ではなくなりますが、GTFS連動しない簡易型のスタンドアロン版で運用効率化支援も可能です。

Q 補助金は活用できるか？

A 活用可能です。導入年度や目的により活用された補助金が様々ですので、別途お問い合わせ下さい。

Q 多言語表記は可能か？

A 対応可能です。

Q 広告の販売・管理の相談まで可能か？

A お任せいただけます。長年の販売・管理スキームがありますので別途お問い合わせください。

Q 画面の一部を使い、自分たちで発信情報を運用することは可能か？

A 基本的な静止画や動画のファイル形式での運用が可能です。操作を容易に行っていただく操作資料と操作教習を実施させていただきます。

Q インターネット通信はどのような対応となるか？

A 当社手配のSIMでの無線通信が基本です。サイネージ専用の施設回線 (Wifi or LAN) 活用も可能です。その他設置環境に合わせたご提案も可能です。別途お問い合わせください。

製品・サービスに関するお問い合わせ・資料請求は、富士フイルムイメージングシステムズ株式会社で承っております。
お電話またはWebより、お気軽にお問い合わせください。

FUJIFILM

富士フイルム イメージングシステムズ株式会社

富士フイルム イメージングシステムズ株式会社

イメージテック事業本部

ビジュアル&サイネージ事業部

■ 目黒営業所

〒141-0031 東京都品川区西五反田3丁目5番8号 JR目黒MARCビル11階

TEL : 03-5745-2261

FAX : 03-5487-0061

<https://www.fujifilm.com/jp/ja/business/signage>

■ 五反田本社

■ 札幌営業所

■ 名古屋営業所

■ 大阪営業所

■ 福岡営業所

お問い合わせは、お電話か右のQRコード、または下記URLまで

<https://biz2.fujifilm.com/display-BusstopSolution.html>

富士フイルム MORA FOR BUS STOP



FUJIFILM

Value from Innovation